

藝術の殿堂——近代的の建築

寶生會能樂堂建築工事概要

1. 位置

東京市本郷區元町一丁目一番地

2. 工程

大正十五年十一月 鎮地
昭和二年一月 始工
同 年十一月 上棟
同 三年三月 竣工

3. 敷地面積

一千四十三坪

4. 建坪

延 七百五十六坪四合二勺
地階 三百三十八坪五合
一階 三百九十三坪三合二勺
二階 二十四坪六合

5. 建築工費

三十七萬餘圓 但し舞臺及橋掛りを含まず

6. 建物の高さ

地盤面より、一階は扶壁上端まで二十二尺
二階は同三十二尺、舞臺見所の部は同三十八尺、屋蓋最高部は同四十二尺、地階床面は同十二尺五寸下り。

7. 観客人員

八百人

椅子席 五百八十七人 座席 二百十三人

8. 各室配置

地階——食堂、同附屬喫煙室〔レストラン〕
同待合所、樂屋小食堂、同役員室、観客休憩室、同附屬喫茶室、階段室、廣間、携帶品預所、〔レストラン〕入口階段室、同廣間及携帶品預所、賣店、配膳室及厨房、同附屬物置、小使室、電氣室、給湯分室、樂屋浴室、其他化粧室、手洗便所等。
一階——舞臺及橋掛、見所（貴賓席、御上覽

所、及ラジオ放送室を含む）、観客休憩室表事務室、貴賓手洗所、階段室、正側面玄關、及下足所、樂屋事務室、鏡の間、樂屋一の間、同二の間、同三の間、同四の間、同五の間、樂屋玄關、〔レストラン〕入口。

二階——衣裳用倉庫

9. 構造形式

鐵筋〔コンクリート〕造、舞臺見所の部分鐵小屋架構、内外形式概して日本風。

イ、基礎——地盤下十七尺鐵筋〔コンクリート〕ベタ地形さし、基礎下端より建物及空堀の外壁全部防水層を以て外側を包被す。

ロ、壁體——鐵筋〔コンクリート〕造外壁面は扶壁瓦葺下迄筋瓦張、埋落し黄土漆喰塗、中央舞臺見所の上部は白漆喰仕上。

間内壁面は舞臺見所を除く外總て黄土漆喰塗、化粧室及便所は腰〔タイル〕張さす、見所間内壁面は、日本風丸柱立、三斗組、批把板薄肉彫淡彩、脚元は腰羽目板張り、大羽目は烏の子貼付砂子葺。

ハ、天井——見所は鐵小屋の下に木製組格を釣りて格間布張りさし、樂屋は普通の竿椽天井さなす外、各室總て地階は床版下端へ直附け、一階は下り天井木摺下地に、何れも白漆喰塗さす。

ニ、屋根——見所上陸屋根は鐵骨〔トラス〕に〔リプラス〕〔コンクリート〕版の上へ、其他は〔コンクリート〕版の上へ、夫々防水層を施し、天窗は田中式鐵棧〔スカイライト〕にさす。

ホ、床——見所椅子席は絨氈敷、同座席は毛氈敷、樂屋は疊敷、正側面玄關、手洗所及化粧室は〔タイル〕張り、其他は概ね〔コン

クリート版〔モルタル〕塗の上、一部文化敷物、又は〔リノリウム〕張す。

へ、出入口及窓——各階外壁の出入口扉及窓〔サッシュ〕は總て銅鐵製とし、内部各室出入口は木製唐戸、樂屋廻りは障子、襖及杉戸を建つ。

10. 衛生設備

便所は總て水洗式とし、各所汚水は之を淨化槽に導き、腐敗槽、好氣菌槽、濾過槽並に消毒等を通し淨化せしめ、二馬力電氣自動揚水〔ポンプ〕に依り公共下水に放流す。給水は市の上水を引込み、料理、洗面、浴室、便所其他雜用一切に供す。

給湯は看客用及樂屋用の二途に區分し、前者は米國〔ラジエーター〕會社製〔アルコラ〕瓦斯湯沸器を、後者は獨逸〔ユンケル〕會社製、〔バイラント〕瓦斯湯沸器を、夫々地階二ヶ所に設備し、手洗、化粧、入浴、料理等の諸用に供す。

11. 瓦斯設備

瓦斯は東京瓦斯會社より供給を受け、専ら各所湯沸器の燃料に供す。

12. 暖房設備

暖房は全館すべて電熱による事とし、見所は各列椅子席の直下床面に凹溝を作り、之に理化學研究所の發明にかゝる〔スペースヒーター〕を裝置し、鐵格子板を以て之を蓋ひ、其の他は各室房の大小に應じ之に相當する容量の電氣裝置暖爐を配置す。

13. 照明設備

夜間照明は總て電燈を用ひ大小併せて五百九十燈、各室用途に應じ、直接間接又は半間接照明の方法に依る。

特に見所の照明は、晝間布張格天井よりす

る自然採光に比して、餘り懸隔なき相似の效果を得んが爲、特殊の考案にかゝる電燈器具二百七十燈(各燈六〇ワット)を鐵骨小屋裏に裝置し、上記格天井の白布を透して見所全體に和かなる照明を放射する方法を探れり。

舞臺、見所、廊下及非常口等には停電若くは非常時に備ふる豫備電燈を配し、之に對して 24 V. 35 A.H. の蓄電池二組、並に蓄電用發電器一臺を地階電氣室内に設備す。

14. 寫眞撮影設備

演能撮影に應ずる爲、見所座席廂屋根の上六ヶ所に、1,000〔ワット〕投光器六個を配置し得る電氣配線をなせり。

15. 〔ラヂオ〕放送設備

舞臺内室の上部五ヶ所に〔マイクロフォン〕を置き、地階座後方見所の一隅に放送用小室を劃し、右線電話二回線に依る中繼放送をなし得る設備をせり。

上記暖房、照明並動力用電氣は東京電燈株式會社より高壓供給を受け、暖房並動力用として 75 K.V.A. 三臺、照明用として 20 K.V.A. 三臺の變壓器を地階に設備し、電線は〔ガーランド〕金屬管を〔コンクリート〕構造體に埋設配線せり。

16. 設計監督並に施工

設計並に監督	大江 新太郎
	奥本 吾市
	森口 三郎
建築工事施工	合資會社 清水組
電氣工事施工	愛工社
衛生工事施工	城口 研究所
瓦工事施工	東久岡 勇之助
裝飾家具施工	高島屋家具裝飾部
植栽工事施工	小川 重次郎

大江新太郎氏は内務省神社局の技師で我國の神宮建築に造詣の深い人である、寶生會の能樂堂を斯る新様式の建築を以て抱擁して少しも無理のない、好

調和のものとせられたのは昭和年代の一劃期的設計である、其大江工學士は目下病床にあると聞く、乞ふ其の回復の日の早からん事を。(係)